



FIRST INTERNATIONAL TRIENNALE OF KOGEI IN KANAZAWA
第1回 金沢・世界工芸トリエンナーレ

Network Crafting
— 工芸的ネットワークング —

告知を貴媒体でお願いするとともに、展覧会の模様取材していただければ幸いです。

主 催	金沢・世界工芸トリエンナーレ開催委員会
共 催	金沢市、金沢市工芸協会
協 賛	金沢商工会議所
後 援	総務省、外務省、文化庁、石川県、石川県伝統産業振興協議会、北國新聞社、NHK 金沢放送局、北陸放送
協 力	金沢 21 世紀美術館、株式会社箔一、パナソニック電工株式会社、三芝硝材株式会社
会 期 ・ 会 場	1. 展覧会 第1会場 平成22年5月8日(土)～6月20日(日) リファーレ 2F 金沢市本町 1-5-3 ※月曜日休み (5月10日は開場) 第2会場 平成22年5月8日(土)～16日(日) 金沢 21 世紀美術館 市民ギャラリーA 金沢市広坂 1-2-1 ※無休 【開館時間】第1会場、第2会場ともに、10:00～18:00 2. シンポジウム 平成22年5月8日(土) 13:00～15:20 金沢 21 世紀美術館 シアター21
料 金	入場無料

お問い合わせ 金沢・世界工芸トリエンナーレ開催委員会事務局
〒920-8577 金沢市広坂 1-1-1 金沢市クラフト政策推進課内
TEL: 076-220-2373 FAX: 076-260-7191
e-mail: pr-kogei@bp-musashi.jp <http://www.kogei.bp-musashi.jp/>

テーマ | 工芸的ネットワーク

■「工芸的」とは

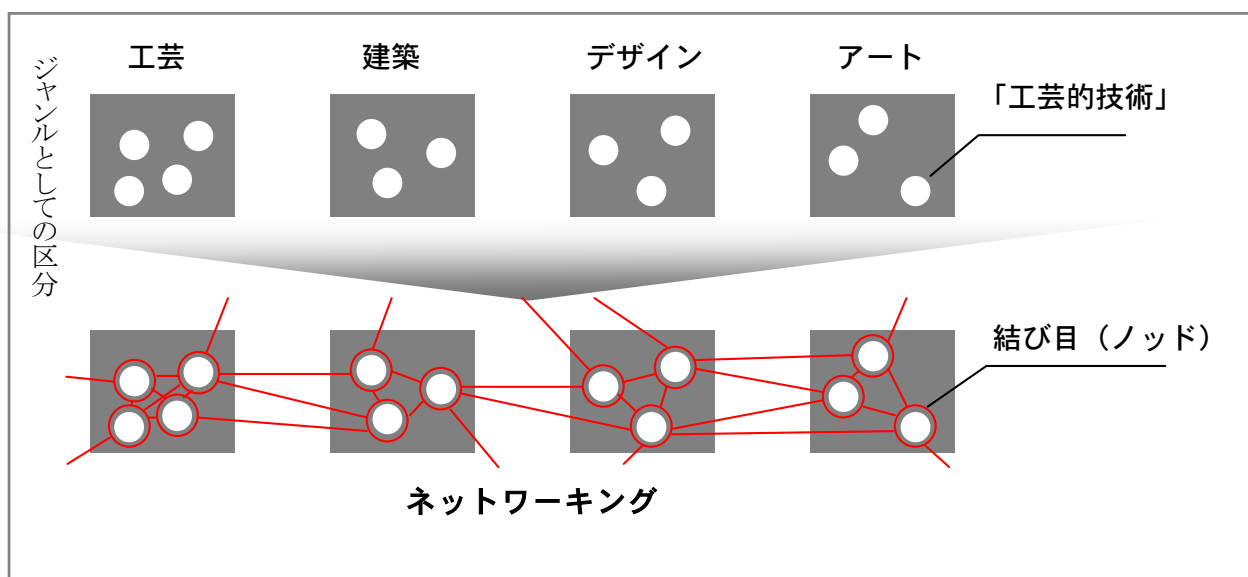
今回のトリエンナーレでは、「工芸的」な世界に着目します。「工芸的」な世界とは、素材と技術が高い水準で調和したときに生まれるモノの状態やそれが作り出す空間の様子です。こうした「工芸的」世界は、狭義のジャンルとしての工芸作品だけではなく、デザインや建築、現代美術といった、他の隣接するジャンルの芸術にも見いだせるものです。「工芸的」世界では、モノの直接性が強調されて、細部が知覚へと訴えかけ、五感を解放します。

■「ネットワーキング」とは

その上で、工芸的技術によるネットワーキングを試みます。今回のトリエンナーレでは、隣接する他カテゴリーである建築、デザイン、現代美術と工芸を大きなネット上にあるものとして広く捉えます。その時、工芸的技術を活かした仕事をしている作家を、ネットの結び目（ノッド）として位置づけます。今回のトリエンナーレでは、このような新しい結び目となる作家の作品を紹介します。それにより、狭義の工芸作品ではなく、工芸的なものの考え方や技術のもつ可能性を捉えていきます。

■複数のキュレーターによる企画

また、企画側の視点も多様なものにするために工芸の研究者、現代美術の研究者、工芸作家らによって企画を進行させます。



金沢・世界工芸トリエンナーレの成り立ちとねらい

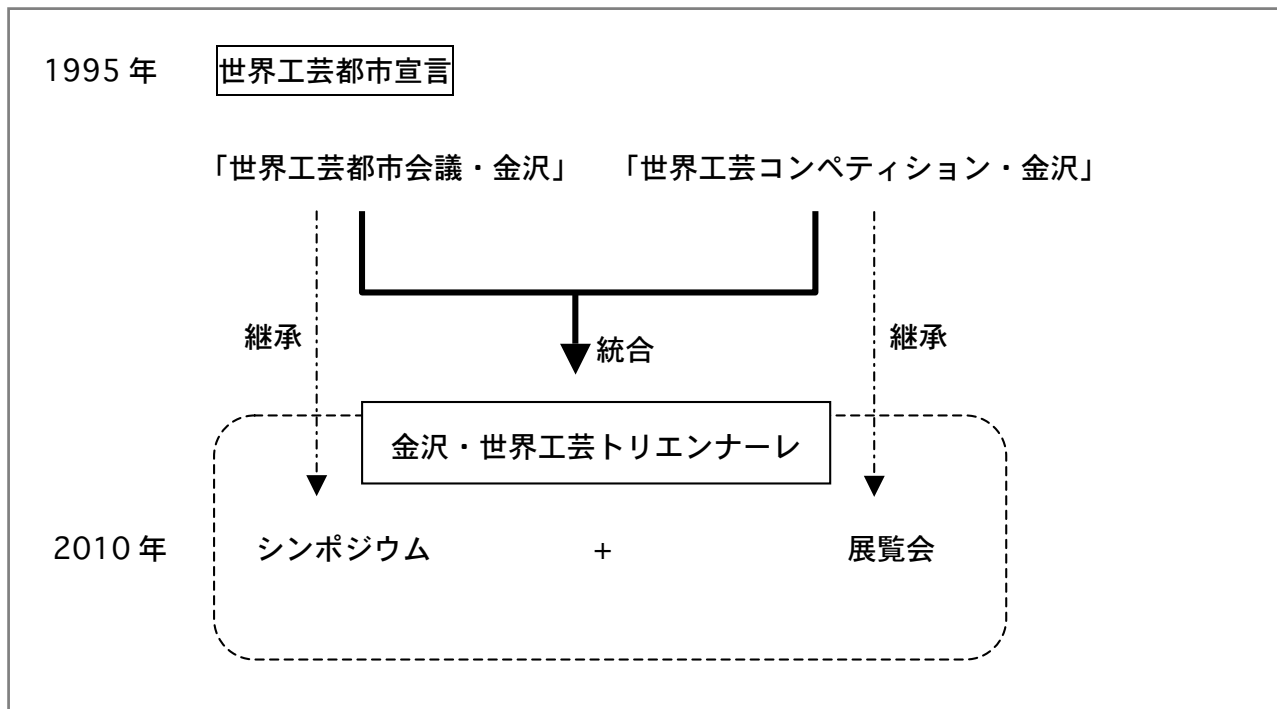
■ 成り立ち

「金沢・世界工芸トリエンナーレ」は、1995 年の「世界工芸都市宣言」をきっかけとして開催してきた「世界工芸都市会議・金沢」および「世界工芸コンペティション・金沢」を統合し、主旨を継承、発展したものです。

「金沢・世界工芸トリエンナーレ」は各回ディレクター制とし、展覧会とシンポジウムを開催する。毎回テーマを設け、ディレクターの指名するキュレーターによる展覧会では、金沢と世界の工芸の現在を紹介し、また、同時に内容に沿ったシンポジウムを開催します。

■ねらい

「金沢・世界工芸トリエンナーレ」の役割の第一義は、時代とともに変化する工芸の位置づけや枠組みを問う場とします。新たに生まれてくる新しい時代の工芸をこの展覧会を通じて金沢へ、そして世界へ紹介していきます。また以上の二点を通じて、金沢、日本、また東アジアを含む世界の工芸振興に寄与します。



展覧会開催内容

今回の展覧会は金沢 21 世紀美術館 館長秋元雄史が「工芸的ネットワーキング」をテーマにデザイン、コンテンポラリーアートを横断する新たな視点から、ものづくりの魅力をディレクションします。今回の展示は、東アジアに焦点を当て、重鎮から若手作家まで約 50 作家の約 200 点を超える試みを一同に展開し、また、伝統の街、金沢ならではの工芸作家と、デザイナーの新作コラボレーションを試みます。会場の構成は、世界でも評価の高い新進気鋭の nendo が手がけます。

ディレクター 秋元雄史

キュレーター チャン・チンユン(張清淵)、伊東順二、金子賢治、大樋年雄、秋元雄史

展覧会出品作家 46 組 (40 人、6 グループ)

青木千絵、チャン・チンユン(張清淵)、チェ・ジェウク、ちゅう右衛門、デレク・アウ(歐汝明)、藤原絵里佳、原智、橋本真之、橋本タ紀夫、シー・メイイン、シー・ヨンシー(徐永旭)、ホアン・ウンイン(黃文英)、今泉今右衛門、板橋廣美、上出長右衛門窯、上出長右衛門窯+丸若屋、上出恵悟、加藤良将、キム・ミョンリ、小曾川瑠那、隈研吾、ミナ ペルホネン、見附正康、中田博士、中川衛、中村信喬、中村卓夫 C-unit 佐藤卓、中島晴美、nendo、新里明士、小笠原森、扇田克也、大樋長左衛門(年朗)、大樋年雄、岡田直人、岡田直人+猿山修、坂井直樹、釋永陽、塩谷良太、城谷耕生、城谷耕生+BAICA、高村宜志、竹村友里、田中信行、寺井直次、三代 徳田八十吉、辻和美、辻和美+factory zoomer、植埜貴子、山村慎哉、イ・スギョン、ツァン・リンユン(張凌雲)

「工芸的コラボレーション」「現代美術と工芸的手法」「建築と工芸的手法」「デザインと工芸的手法」に取り組む作家が出品

出品点数 約 200 点

展覧会の5人のキュレーター

■チャン・チンユン（張 清淵）

陶芸家、国立台南芸術大学副教授

1960年台湾のピンドン(屏東)市生まれ。米国ロチェスター工科大学アメリカン・クラフツマン学部で陶芸の修士号を取得。現在、国立台南芸術大学陶芸科副教授。2008年台湾陶芸ビエンナーレの審査員を務める。最近企画した展覧会に、台湾の現代陶芸彫刻展「策量探底」がある。

■伊東順二

富山大学教授、美術評論家、アートプロデューサー

1953年長崎県生まれ。早稲田大学大学院仏文科修了。95年第46回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館コミッショナー、97年パリ日本文化会館開館記念「デザインの世紀」展コミッショナー。2000～01年文化庁メディア芸術祭企画展プロデューサー。前長崎県美術館館長。富山市政策参与。長崎県芸術文化アドバイザー。パリ日本文化会館運営審議委員。東京芸術大学非常勤講師。

■金子賢治

茨城県陶芸美術館館長

1949年生まれ。東北大学大学院文学研究科美学美術史修了。サントリー美術館学芸員を経て、84年東京国立近代美術館研究員となる。99年文化庁文化部調査官。2000年より10年3月まで東京国立近代美術館工芸課長。主な企画に「鈴木治」展、「熊倉順吉」展、「現代工芸への視点—装飾の力」展など。

■大樋年雄

陶芸家、ロチェスター工科大学客員教授、国際陶芸アカデミー会員、日展会員

1958年生まれ。84年ボストンユニバシティ大学院修士課程修了。99年日本伝統工芸展入選(以後10回)。2002年日展特選ならびに金沢市文化活動賞受賞。05年日展特選再受賞。08年日本現代工芸美術展東京都知事賞、09年日展会員賞受賞。現在、東京芸術大学講師、金沢大学客員教授、産地プロデューサー(経済産業省)、日展審査員、日本現代工芸美術展審査員なども務める。

■秋元雄史

金沢21世紀美術館館長

1955年東京都生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科卒業。91年から2004年6月まで、(株)ベネッセコーポレーションに勤務。美術館の運営責任者として国吉康雄美術館、ベネッセアートサイト直島(旧・直島コンテンポラリーアートミュージアム)の企画、運営に携わる。1992～2004年までベネッセアートサイト直島、チーフキュレーター。2004～06年12月まで地中美術館館長。(財)直島福武美術館財団常務理事、ベネッセアートサイト直島・アーティスティックディレクター。

キュレーター別作家一覧

キュレーター		作家	出身地等
チャン・チンユン	1	チェ・ジェウク	○韓国
	2	デレク・アウ	○中国
	3	シー・メイイン	○台湾
	4	シー・ヨンシー	○台湾
	5	ホアン・ウンイン	○台湾
	6	キム・ミョンリ	○韓国
	7	ツァン・リンユン	○中国
	8	チャン・チンユン	○台湾
伊東 順二	9	青木 千絵	●
	10	橋本 夕紀夫	
	11	今泉 今右衛門	
	12	加藤 良将	
	13	小曾川 瑠那	●
	14	隈 研吾	
	15	中村 信喬	
	16	釋永 陽	●
	17	城谷 耕生 *1	
	18	植埜 貴子	●
金子 賢治	19	橋本 真之	
	20	中島 晴美	
	21	新里 明士	
	22	小笠原 森	
	23	塩谷 良太	
	24	高村 宜志	

キュレーター		作家	出身地等
大樋 年雄	25	原 智	●
	26	板橋 廣美	●
	27	中田 博士	●
	28	中川 衛	●
	29	扇田 克也	●
	30	坂井 直樹	●
	31	竹村 友里	●
	32	田中 信行	●
	33	山村 慎哉	●
	34	大樋 年雄	●
秋元 雄史	35	藤原 絵里佳	●
	36	上出 恵悟(上出長右衛門窯) *2	●
	37	ミナ ペルホネン	
	38	見附 正康	●
	39	中村卓夫 C-unit 佐藤 卓 *3	●
	40	nendo	
	41	大樋 長左衛門(年朗)	●
	42	岡田 直人 *4	●
	43	寺井 直次	●
	44	三代 徳田 八十吉	●
	45	辻 和美 *5	●
	46	イ・スギョン	○韓国

*1 城谷耕生、城谷耕生+BAICA

*2 ちゅう右衛門、上出恵悟、上出長右衛門窯、上出長右衛門窯+丸若屋

*3 中村卓夫、青木有理子、大村修一、酒井忍、竹村友里、本江和美、吉田安喜、佐藤卓

*4 岡田直人、岡田直人+猿山修

*5 辻和美、辻和美+factory zoomer

※ 「出身地等」中、●については、金沢市出身、金沢美術工芸大学、卯辰山工芸工房、九谷焼など金沢、加賀ゆかりの作家

展覧会の会場デザイン | nendo

第1会場である「リファール」の会場デザインを nendo が行う。



※会場デザインについては、変更になる場合がございます。ご了承下さい。

■コンセプト

「仮想空間の設計における“設置”という、超テンポラリーな手法」

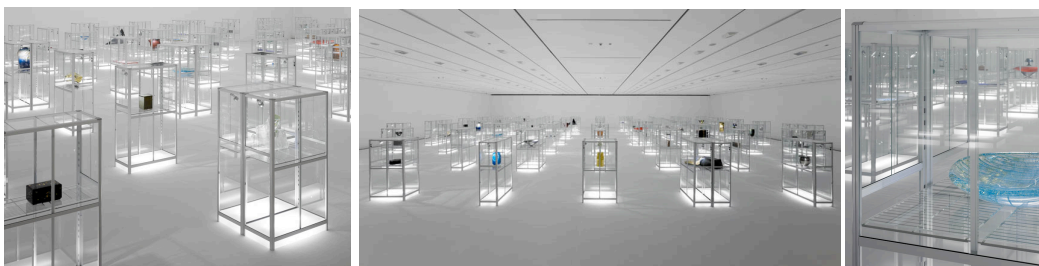
「既製品を見立てる」「場所を見立てる」

「別の空間を挿入」

■nendo プロフィール

1977 年カナダ生まれの佐藤オオキを中心に、建築、プロダクトデザインで活動するデザインオフィスである。nendo の持ち味はジャンルを横断する身軽さとアイデア展開の切れである。「日常における“！”をすくいとり、それをわかりやすい形にする」。彼らの仕事のうち、今回は、リファールの会場構成だけでなく、出品作家としても木工職人の技術力をぎりぎりまで引き出した椅子などを出品。

＜参考＞金沢・世界工芸トリエンナーレ 2010 プレイメント「金沢の工芸の現在」展
平成 21 年 10 月 13 日(金)～25 日(日) 金沢 21 世紀美術館 市民ギャラリー A



会場デザイン | nendo

シンポジウム「工芸的ネットワーキング」

第一部では、第1回金沢・世界工芸トリエンナーレの各キュレーターが、同展のテーマである「工芸的ネットワーキング」をどのように解釈し、どのような観点から作家を選出し、どのようなメッセージを込めたかを発表します。第二部では、パネリスト全員で新しい工芸の可能性や工芸的ネットワーキングについて討論します。

日時＝ 平成22年5月8日(土) 13:00～15:20 (12:30開場)

会場＝ 金沢21世紀美術館 シアター21

料金＝ 無料

定員＝ 先着100名（当日10:00より会場前にて整理券を配布いたします。）

パネリスト 張清淵（陶芸家、国立台南芸術大学副教授・台湾）
伊東順二（富山大学芸術文化学部教授）
金子賢治（茨城県陶芸美術館 館長）
大樋年雄（陶芸家、金沢大学客員教授）

モデレーター 秋元雄史（金沢21世紀美術館 館長）

イベント

■ワークショップ「KUTANI SEAL WORKSHOP」

九谷焼には転写(=SEAL)という技術があります。あらかじめ印刷された文様を、シールのように器に貼付け同じ製品を量産する技術です。手描きを第一とする長右衛門窯では使わない技術ですが、多くの九谷焼で使用されています。この転写技術を使って一緒に遊んでみようというのが、『KUTANI SEAL WORKSHOP』です。

- ・日時＝ 平成22年5月29日(土) 13:00～18:00 (17:00受付締め切り)
- ・会場＝ リファール 2F
- ・料金＝ 3,500円 (材料費、送料込み)
- ・定員＝ 30人
- ・参加方法＝ 当日随時受付 (ただし、材料がなくなり次第受付を終了いたします。)
- ・企画＝ KUTANI SEAL PROJECT (上出恵悟＋丸若屋)

※ 出来上がった作品は焼成して後日お届けします。

■レクチャー「日本の工芸の世界化は可能か？」

平成21年度文化庁委託の調査事業「文化発信戦略に関する調査研究」で座長を務めた青柳正規氏は、国内外における近代工芸のニーズ調査と研究を実施し、国際社会に向けた展覧会の戦略立案を行いました。その調査結果を踏まえて青柳氏の眼に見える国際社会における日本の工芸の可能性についてお話いただき、併せて金沢における工芸の将来像や海外戦略を考えます。

- ・日時＝ 平成22年6月12日(土) 16:00～17:30 (開場15:45)
- ・場所＝ 金沢21世紀美術館 レクチャーホール
- ・料金＝ 無料
- ・定員＝ 80名 (先着順、事前申し込み不要)
- ・講師＝ 青柳正規 (独立行政法人国立美術館理事長、国立西洋美術館長)

■関連イベント

二十一世紀塾 二〇一〇「KOGEI、いろいろ ～芸術のなかの工芸、生活のなかの工芸、産業のなかの工芸、地域のなかの工芸」

本展覧会の参加作家によるトークディスカッションを行います。

- ・日時＝ 平成22年6月19日(土) 16:00～
- ・会場＝ 金沢21世紀美術館 シアター21
- ・料金＝ 1,000円 (1ドリンク付)
- ・ゲストスピーカー＝ ジョー・アール (ジャパン・ソサエティ・ギャラリー(NY)ディレクター)
- ・パネリスト＝ 原智(予定)、中田博士、田中信行、辻和美、山村慎哉 (出品作家)
- ・主催＝ 金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]

出版物

第1回 金沢・世界工芸トリエンナーレ展覧会カタログ

工芸的ネットワーキング

(発行:金沢・世界工芸トリエンナーレ開催委員会)

■ アートディレクション：nendo

■ 判型：B5変形版カラー

■ ページ数：96p.

■ 言語：日本語／英語

■ 写真：カラー70点

■ 定価：1000円

リファール2F、金沢21世紀美術館ミュージアムショップにて販売。

広報用画像

広報用に次の画像をご用意しております。必要でしたら、事務局までご連絡下さい。
なお、使用の際には、各画像下のクレジットを明記下さい。

1



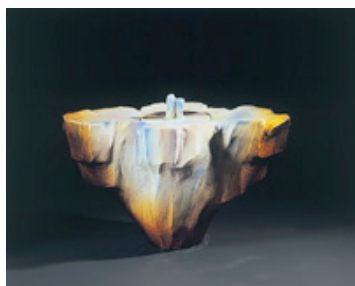
チャン・チンユン (張清淵)
《mislocated matrix 2009-11》

2



小曾川瑠那
《記憶のなりたち》

3



大樋年雄
《大樋飴釉窯変祭器》
撮影：姫野治雄

4



イ・スギョン
《Translated vase》
撮影：Shin Oh Seok
courtesy of the artist and Ota Fine Arts

5



nendo
《cord-chair》
撮影：川部米応